

手網沢

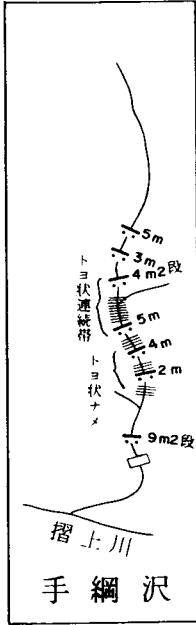
L*

一九八二年八月二十九日

一〇時、下降開始。手網沢側は高山沢側と植生が異なり、ヤブこぎなして沢に降り立つ。

沢幅は狭く、ナメも落差があり、連瀑帯もある。高捲きながら下降。

下流部には取水用の塩ビ管がぶらさがっている。連瀑帯を過ぎると河原となり、まもなくF1。二段九段の滝で、滝下が農薬用水の取水堰となっている。



取水堰下は広い河原で、そこを通

桧山沢

L

一九八三年七月九日

この一週間雨の降らない日はなく、摺上川本流は相当に増水していた。桧山沢に取り付くにはどうしても渡渉しなければならぬ。かなり早い

流れなので、流木を支柱にしながら川の中に入る。深さは最大股下であった。私にとり、

り抜けて摺上川本流に出る。下降終了一時五五分。(記)

「タイム」 下降開始(一〇:〇〇) ↓

沢(一〇:二五) ↓ 取水堰(一一:二五)

三五) ↓ 摺上川本流(一一:五五)

この程度の渡渉はさほど苦になるものでもなかったが、沢登りは今日が初めてという佐藤さんは相当に面喰らったようである。

すぐに遊行開始。樹林帯を流れる薄暗い沢で、小滝とナメが続く。小滝といっても二段程度のもので登るにほとんど苦労はいらない。

三〇分程歩くと、左岸に水を引く

ホースが出てきた。茂庭地区の農地の多くは、農業用水をかなり離れた沢から引いてきている。これもそうしたもののうちのひとつだろう。更に一〇分程歩いた所に小さな取水口があった。

沢はなおも小滝とナメが続く。四段の滝はシャワーで突破したが、ホールドが少なく苦しかった。このすぐ先、右岸に大きな岩がある所を越えると沢は平凡となった。

一帯はいつしか杉の美林に変わっている。支沢の中流域に農地（その大部分は放棄されている）や、造林地が存在していることも茂庭地域の特徴の一つである。

この地域では支沢の中流域が比較的水平坦となることを昔の人はよく知っており、自分の家からかなり離れているにもかかわらず、農地をひらき、杉や松の苗を植えたものだろう。

「まだ水量があるからもう少し先に行つてから引き返そう」と思い、なおも先に進むと、一〇段二段の滝が出てきた。ホールドも比較的多く、シャワーで直登する。この先ナメと小滝が連なる。支沢の一本についても帰りがけにちよつと偵察してみた

が、こちらの方も同様である。快適に登り詰め、一〇時四〇分、遊行終了。松山沢の源は音をたてて湧きだす大量の清水であった。

〔タイム〕 出合(八:〇五) ↓ 遊行終了(二〇:四〇)

(記)

